知床は今年、国立公園指定60周年、そして来年は世界自然遺産登録20周年を迎えます。このような記念すべき年に、知床の核心部でもある知床岬に、大規模工事を伴う携帯電話基地局とその電源となる太陽光パネル群を建設する計画が明らかになりました。

知床観光船の沈没事故がきっかけですが、国土交通省はすでに安全のために義務づけている法定無線設備から携帯電話を除外しており、「船舶の安全確保」のための携帯電話の通信環境改善という理由はすでに成り立ちません。
計画は現在、中断していますが、中止にはなっていません。人間の便利のために自然を破壊してまで基地局は必要なのでしょうか？　それがいま問われているのだと思います。

知床は陸・海合わせた約7100ha が遺産地域で、国内の世界自然遺産地域では最大の広さです。遺産となる4つの登録基準のうち、動植物が育む独自の「生態系」と、絶滅危惧種が生息する「生物多様性」の2つが評価されました。「生物多様性」が評価されたのは知床だけで、この地に生息するすべての生物が高い評価を受けたのです。そこに世界自然遺産・知床の価値と魅力があります。

縄文の時代からアイヌ文化へと続く永い歴史の中で遺されてきた「知床」という遺産を、今に生きる我々がどう守り、育てていくのか。我々には自然を守る義務があり、世界自然遺産となったこの地を後世に引き継いでいく責任があります。それには常に自然に対する畏敬の念を忘れず、少し不便でもそれを宝に生きて行く、という覚悟が問われているのだと思います。

今日のこの会に参加もしくは視聴されているみなさん、国土の生態系がこれ以上、荒れることの無いことを願い、知床からのメッセージとさせていただきます。

知床の自然を愛する住民の会　　会長　午来　昌（ごらい・さかえ）